

## 『お家に帰ります！』

配役：嫁「〇〇さん」（介護者）、  
姑・舅「おばあちゃん」「おじいちゃん」（認知症）  
解説者

【嫁】「やだ、もう4時だわ。そろそろ夕飯の用意しなくちゃ。おばあちゃん、テレビでも見て待っていてね。」

【姑】「はいよ。水戸黄門が始まるから見ているよ。」

姑、しばらくすると何かソワソワ動き出す。  
部屋に入りふろしき包みを背負って出てくる。

【姑】「そろそろ暗くなってきたから家に帰るわ。」

姑、外に出ようとする。

【嫁】「おばあちゃん、どこへ行くの？ここがおばあちゃんの家でしょう。」

【姑】「いいえ、私の家はここではありませんよ。〇〇に帰ります。」

【嫁】「この家に何年もいるじゃないの。」

【姑】「帰ります。」

【嫁】「もう十年前にこの家に引っ越してきたでしょう。前の家はもうないわよ。」

【姑】「そんな訳ないでしょう。何を言ってんだい。帰らせてもらうよ。」

【嫁】「毎日毎日そう言って、何度も迷子になって、今までは警察に無事に保護されたからいいようなものの・・・恥ずかしいっらないわよ。」

【姑】「とにかく帰るよ。」

【嫁】「どうせ帰れないくせに・・・ここにいて頂戴！」

【姑】「私を家に帰さない気か！」

【嫁】「おばあちゃんの家はここでしょう！毎日毎日、全く・・・」

【嫁・姑】「誰か助けて！」

### 『解説』

これは帰宅願望と言い、俗に夕暮れ症候群などとも呼ばれています。暗くなったり何もすることがなかつたり不安になると出現するの症状です。これと同じような症状で定年後、認知症になり定年退職したことを忘れてしまい、毎朝出社しようとする出社願望というものもあります。人間は、止められれば止められるほど願望は募るものです。ですので、この帰宅願望や出社願望は叶えてあげなければ、叶える努力をしてあげなければ、より願望は強くなり不安や混乱を招き、「徘徊」と呼ばれる行動に繋がってしまうのです。その一刻の希望や思いを叶えてあげてください。少しずつ、この症状は消滅していきます。ではこういった時にはどのように対応したらよいのでしょうか。続きをご覧ください。

【姑】「そろそろ暗くなってきたから家に帰るわ。」

姑、外に出ようとする。

【嫁】「おばあちゃん、どこへ行くの？ここがおばあちゃんの家でしょう。」

【姑】「いいえ、私の家はここではありませんよ。〇〇に帰ります」

【嫁】「そうですか。でもここからだ少し遠いのでタクシーで帰りましょう。今、タクシーを呼びますね。」

嫁、電話を掛けた振りをする。

【嫁】「あっ、もしもしタクシーですか？今から〇〇に行きたいのですが車を1台お願いします。

(少し間をおき)

あっ、そうですか。今出払っているんですか。

えっ？1時間位かかるんですね。はい。はい。

じゃあお願いします。」

嫁、電話を切る。

【嫁】「おばあちゃん、今タクシーが混んでいて、来るまでに1時間位かかるですって・・・  
待っている間、散歩でもしましょうか。」

嫁、姑でしばらく外を歩く。

【姑】「ああ、真っ暗になっちゃたね。」

【嫁】「じゃ今日はここに泊まりましょう。家に帰るのは明日にしましょう。」

【姑】「そうさせてもらえたら有難いけど・・・悪いじゃない。」

【嫁】「とんでもないわ。大歓迎よ。夕食も作りすぎてしまったので、食べてもらえると助かります。」

【姑】「そうかい？じゃあそうさせて頂こうかね」

### 『解説』

いかがでしたか？

この症状には理由や目的があることもあります。例えば認知症が進行し、自分の青年時代の記憶の中で生活している方ですと、自分の生まれ育った家で祖父母の世話をする為に帰りたい」ということもあります。そういった場合は「今日はおじいちゃん、おばあちゃんは旅行に出掛けているんですって。」など、その理由を取り除いてあげ安心してもらうことも大切です。

帰宅願望は時々出現しますが、面倒臭がらずに大切に対応することによって、早めに消失します。